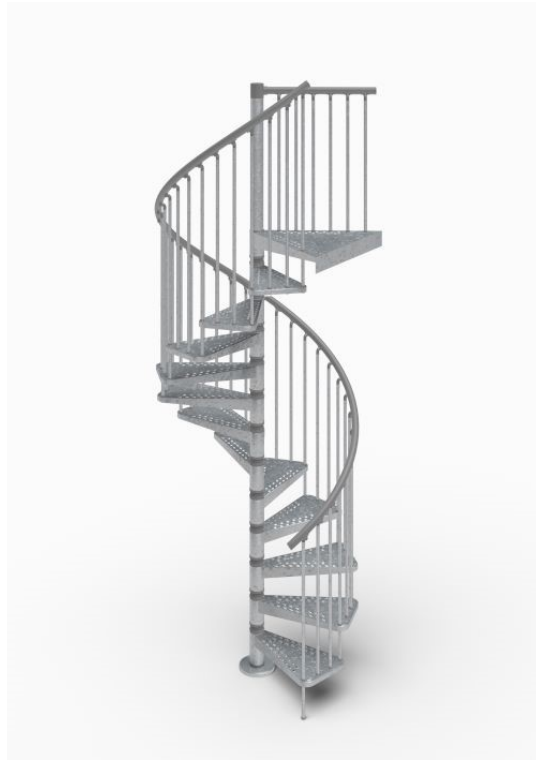


メタルジंक取付説明書



【検品のお願い】

商品をお受け取り後すぐ、組立作業を開始する前に数量や品質をご確認ください。
保証期間を過ぎた場合や作業を開始した後に不具合を報告された場合は、保証の対応
ができません。ご了承ください。

【組立動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=q04t0x5v27o&t=216s>



ご不明な点等はお気軽にお問い合わせください。
株式会社ピラミッド 06-6584-8422 info@arke.jp

製品情報

メタルジンク屋外用螺旋階段の特徴

メタルジンクは、滑り止めパンチ加工が施された金属ステップを持つ屋外用モジュール式螺旋階段です。以下にその特徴と構造を詳述します。

支持構造

- センターポール: スチール製で、ステップとスペーサーの内部に配置されています。
- 調整可能な蹴上: ネジ付きプラスチックスペーサーを使用して調整できます。

手すり

- 構成: プラスチック製手すりと縦型子柱で構成されています。

踏板

- パンチ加工: 踏板には剛性と歩行時の抵抗力を高めるパンチ加工が施されており、滑りにくくなっています。

耐候性

メタルジンクの耐候性は以下の方法で確保されています：

- 露出金属部分: ステップ、支柱、手すりの柱は溶融亜鉛メッキが施されています。
- 内部コンポーネント: センターポール、固定金具、ネジ付きブッシュは電気亜鉛メッキが施されています。
- ボルトと金具: ステンレス製のボルトと金具を使用しています。
- プラスチック部品: その他の部分には耐候性の高いプラスチック部品を使用しています。

これにより、メタルジンクは屋外環境でも高い耐久性と安全性を維持します。

蹴上

最小 21 cm ～最大 23 cm まで（プラスチック製のネジ付きスペーサーで調整）

踏板角度

ステップ角：30°

踊り場角度：60°

踊場位置（最上段踏板）

上階床高と同レベル配置

階段直径

120, 140, 160 cm

踏板と支柱

支柱に溶接された型押しメタルのステップ 12枚 + 踊場1枚

全高 (HT)：273 ～ 299 cm

ステップ材質：Fe P13 (UNI 5867 EN111)

支柱材質：S235-JR (EN 10027)

表面処理：ナイロン6.6 - 黒

手摺とその他のコンポーネント

手摺子：∅2.2

材質：S235-JR (EN 10027)

表面処理：溶融亜鉛メッキ (UNI EN 14.07.000.0)

トップ素材と付属品：ナイロン6.6 - ブラック

手すり：モブレン樹脂・ブラック

ボルト：304 ステンレス鋼

全体寸法

色

・亜鉛メッキグレー またはカラー仕上げ

注：亜鉛メッキ仕上げの場合、組み立て直後に適切なプライマーを使用して塗装するか、12か月以上外気にさらした後に塗装することが可能です。

公称直径 (cm)	+手摺	
	最小開口穴径 (cm)	クリアランス (cm)
120	125	2.5
140	145	2.5
160	165	2.5

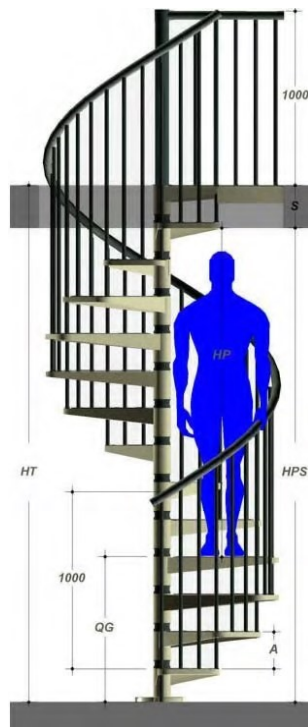
キット商品一覧

- 完全な基本階段キット（12段 + 1つの踊り場を備えたもの）
- 追加ポールキット
- 補強キット（子柱と壁の接続）
- 補強キット（階段子柱と欄干の接続）
- 補強キット（欄干補強）
- 追加ステップキット Ø1200
- 追加ステップキット Ø1400
- 追加ステップキット Ø1600

備考 ～亜鉛メッキについて～

溶融亜鉛メッキ製品には、以下の特徴があります：

- 亜鉛の密着が不完全な部分が含まれる場合や、組み立て中に亜鉛メッキの表面が損傷する可能性があります。
- 製品寿命を長く確保するために、施工終了後に全体を確認し、亜鉛塗料を塗布してください。
- 定期的に損傷した箇所をチェックし、市販の同様の製品で補修することをお勧めします。
- 溶融亜鉛メッキ製品は、風雨にさらされた亜鉛の酸化プロセスにより、時間の経過とともにくすみ、不透明になります。
- 適切なプライマーを利用して組み立て直後に塗装するか、12～18か月間外気にさらした後、に塗装することが可能です。



HT – 床から床までの総高さ

HPS – 下の階から天井までの高さ

S – 床の厚さ (HT-HPS)

A – ライザー

QG – 穴内の最初のステップの高さ

HP – 穴内の通路の高さ (HPS-QG)

組立ガイド

！設計上の注意！

耐荷重確認: 組み立てを始める前に、床や梁の耐荷重、床下のパイプや電気ケーブルを確認してください。

金属部品の取り扱い: すべての亜鉛メッキ金属部品は、金属部分に穴を開ける必要がないように設計されています。錆や腐食防止のため、補強キット利用時などを除き、金属部品への穴開けや切断は控えてください

支柱と組立

- ① 中間ステップと踊り場ステップを準備します。

子柱を挿入するためのプラスチックブッシュの止めダボを中央に向けてを踏板に取り付けます。

- ② ポールA/B/Cを組み立てネジしっかり回しロックします。

- ③ 踊り場ステップを利用し、ポールを配置します。

水平器を使用して「ポールと床の垂直」と、「踊場と床の水平」を確認してください。

ずれや測定誤差を避けるために、ポールに踊場を一時的に仮止めするなどして、床穴位置を測定することをお勧めします。

- ④ 位置が決まったら印をつけ下穴をあけネジとダボで固定します。

注意: 木造の床やスラブの場合は、木工ネジまたはソケットなど、構造に合わせた固定具を用意してください。

- ⑤ ねじ付きリング6400430xx、ナット6400450xxを締めてスペーサーの高さを [A-170] に調整し、準備しておきます。

注意！ **A 蹴上 = HT/段数** であることに注意してください

注意！ 最初の蹴上は、スペーサーの平均高さからプレートの厚みを差し引く必要があります。

注意！ 階段を本締めし公差が発生した場合、全てのプラスチックスペーサーに半回転ほど加え、修正してください。

注意！ 最下段のスペーサーのみ上下反転してご利用ください。（下図右側）



⑥ プレートカバー（6003560xx）から、スペーサーとステップの順にポールに挿入していきます。

⑦ 踊り場挿入し、上り口に配置し、アンカーボルトで壁に固定します。

注意！木造の床/スラブの場合は、木エネジまたはソケットなど、構造に合わせてご用意ください。

⑧ フランジ、長ねじ、親柱をポールに挿入し、ナットを使用して締めて、圧縮しながら固定します。

注意！まだ、ステップが回転して配置を調整できる程度に固定してください。

注意！ナットを締めて階段を圧縮した際に公差が発生した場合、それぞれのプラスチックスペーサーを半回転ほど加え、修正してください。

手すりの組み立て

ステップ間を通る通し柱（H116.5cm）により、正しい回転位置を確認することができます。

正しい位置で完成させるために、施工中の調整が必要となるため、施工の前半では、子柱はステップに「完全に」固定しないでください。支柱上部のM22ナットを完全に締め込み、蹴上が確定した後に、手すりの固定ダボの最終的な本締めを行ってください。

⑨ 子柱をすべてのステップに挿入します。

通し柱となる子柱はダボを使用して固定、ステップ上の子柱はプラスチックの留め具で固定します。

手すりのプラスチック部品の組み立てには、潤滑グリースを使用してください。

プラスチック部品を子柱に挿入する際、事前にプラスチックの外側ブッシュをしっかりとロックしてください。ダボを強く締めすぎると、子柱を損傷する可能性がありますので、挿入する前にダボの先が出ていないか確認してください。

⑩ 子柱上部を組み立て、階段勾配や手すり傾斜に合わせて傾けます。

⑪ 最下段子柱は固定パーツを使い地面に必ず固定します。錆びを防ぐため、最初の子柱は切断しないでください。そのため、最下段子柱は階段の傾斜に完全には追従しません。
注意！木造の床/スラブの場合は、木エネジまたはソケットなど、構造に合わせてご用意ください。

⑫ 子柱の長さは、直径サイズ毎に異なります。図より配置を確認してください。

まず、中央の子柱を設置し、次に通し子柱を設置します。通しの子柱は上下にスライドさせて、調整します。

蹴上210mm: 中央の2本の子柱を左右にスライドさせ、子柱間隔を広げます。

蹴上 220mm: 中央の2本の子柱をスロットの中央に保ち、等間隔で設置します。

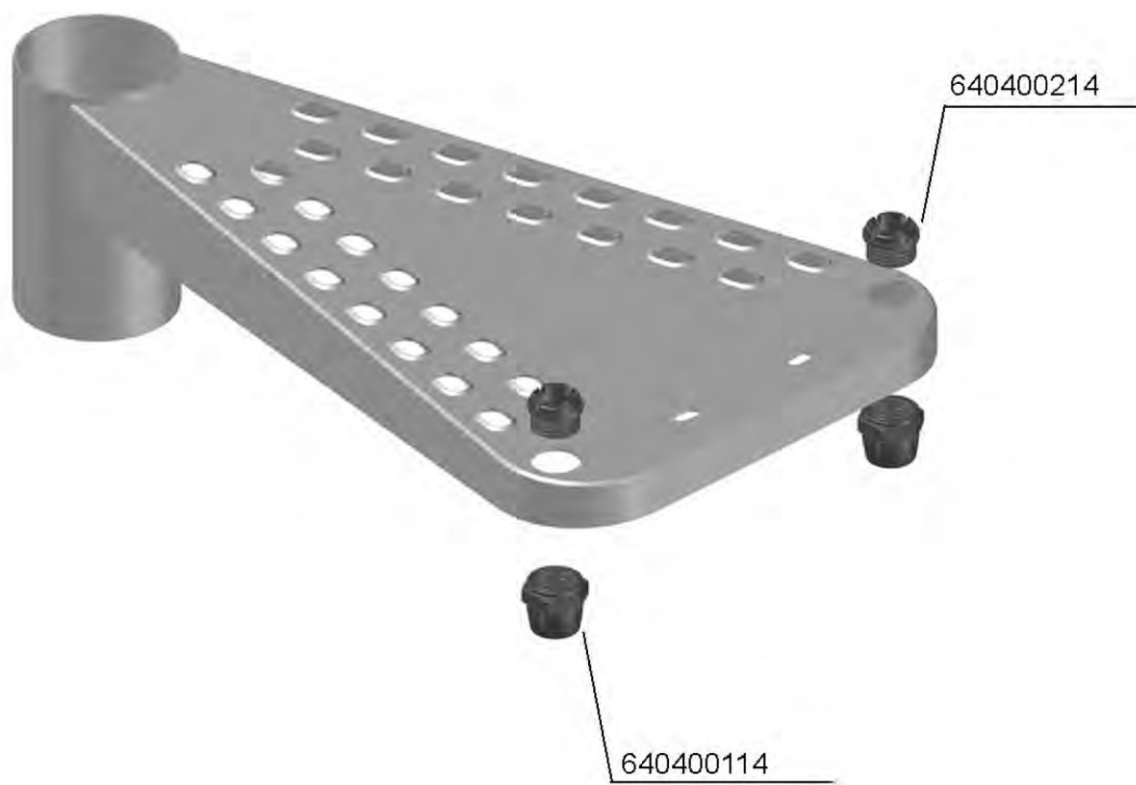
蹴上 230mm: 中央の2本の子柱を左右にスライドさせ、子柱間隔が最小になるようにします。

蹴上が230mm以下の場合、通し子柱は踏板の底へ少し落とします。（踏板はカーブしているため見えにくい設計です）

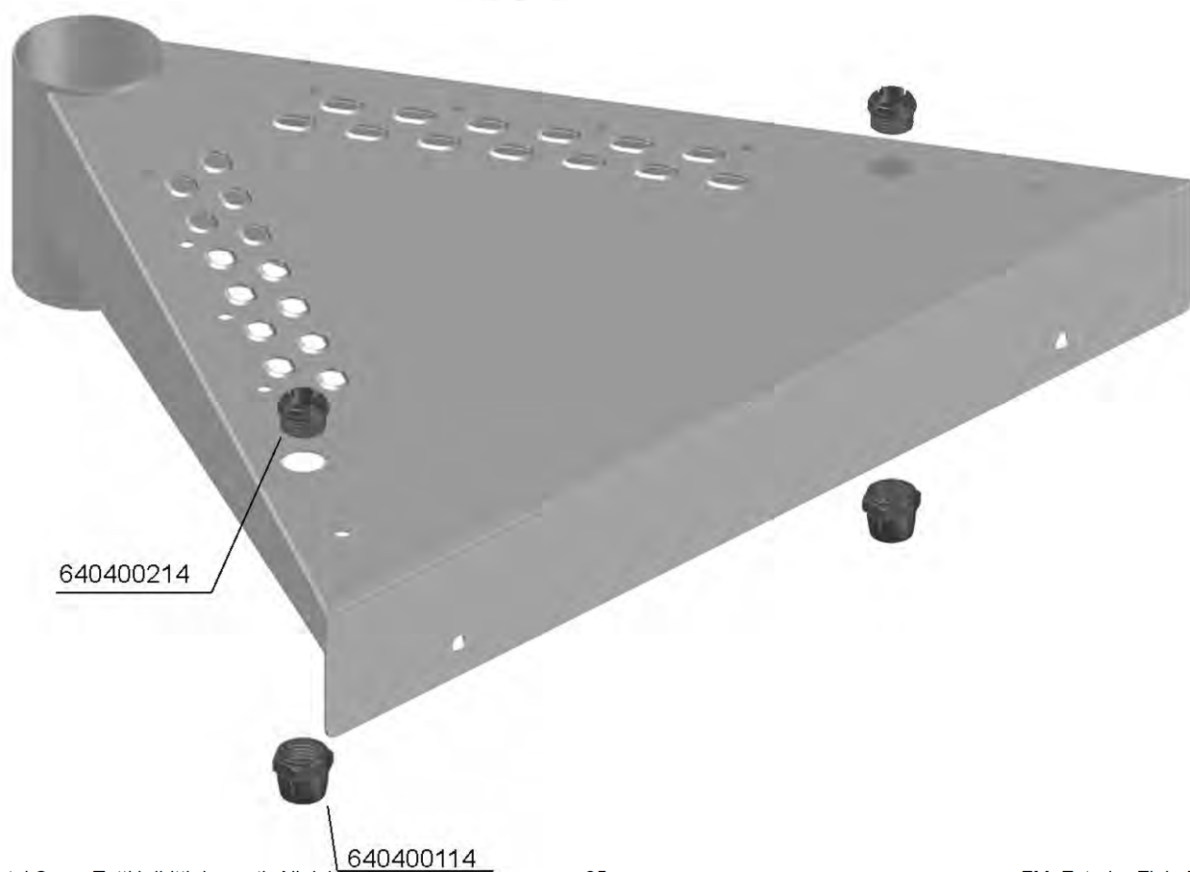
⑬ 踊場ステップに子柱を配置します。

踊場手すり（欄干）には、長さ964 mmの子柱を使用します。 付属の「子柱ストップ」を踊場の端の子柱 (回転プラットフォーム手すりの反対側) に装着して固定します。

手すりは、子柱にネジで取り付けていきます。最初に通し子柱を固定し、次にステップ中央の子柱を固定していく必要があります。

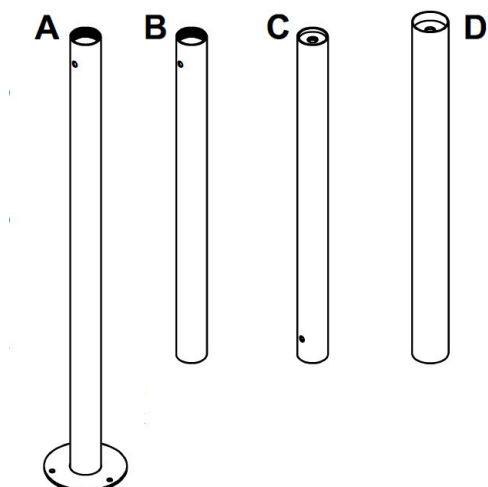


①



ポールの組み合わせ

- A+B
256 cm以下
- A+B+C
257 - 350 cm
- A+B+B+C
351 - 446 cm



※A～Cは内蔵されるポール、Dは親柱です。

